

昨年度実施したアンケートでは、「笠松町に道徳のまちづくり条例が制定されていることを知っていますか?」との問いに対し、「知っている」と回答したのは約40%でした。「道徳のまち」のイメージカラーのオレンジ色に対する認識は約70%でした。

平成19年12月25日、「笠松町道徳のまちづくり条例」が公布され、同日より施行されました。同時に、道徳のまち笠松委員会、道徳のまち笠松推進会議が設置され、「道徳のまち笠松」の取り組みが開始されました。それから月日は流れ、昨年12月末で満10年を迎えました。

この10年間には、笠松町に道徳的風土や人づくりを進め、マナーやルールを大切にしたいと誇りをもてるまちづくりを目指し、活動が進められてきました。

「あいさつのまちづくり」では、あいさつ運動への協力やあいさつ絵本の作成など、「きれいなまちづくり」では、トンボ天国クリーン大作戦やイベント前後の清掃活動など、「ささえ合うまちづくり」では、ボランティア活動の推奨やイベントでのおもてなし活動などが挙げられます。併せて、「道徳のまち笠松」のPRや道徳心を啓発する広報活動やつどいを行ってきました。

先日開催された「道徳のまち笠松委員会」では、「道徳のまち笠松」に対する願いや思いは徐々に町民に浸透しており、道徳的な姿が多く見られるようになってきたとこの10年を振り返りました。その上で、次の10年では、イメージカラーのオレンジ色をさらにアピールし、町内の諸団体や企業などと連携を図り、他の市町に誇れる「道徳のまち笠松」にしていくことを確認しました。

2月25日には、10周年を記念する「第10回道徳のまち笠松のつどい」を開催します。町民の皆さんと、道徳のまち笠松10周年を喜び合いたいと思います。多数の参加をお待ちしています。



道徳のまち笠松委員会



道徳のまち笠松推進会議

かさまつの民話「昔むかし」

うたれ坊③

加納といえ、中仙道の宿場で、京や江戸へむかう人たちが、いつもにぎわっていた。力まかせのいたずらの数々は、二里もはなれた笠松までも聞こえていた。

その悪名高い鏡岩助三郎が、どうして父の墓におまいりしているのだろうか。それも、うす暗くなるまで、何れも何れも、頭を地につけておまいりしているなんて。

五平には、とてもふしぎなことだった。

やがて二年たった夏のはじめ、五平は鏡岩助三郎のうわさを耳にした。はじめは気にもとめなかったが、二度、三度と聞くにつれ、あの墓参りに来ていた大男のようすを思い出した。

このころ、中仙道の加納宿

かさまつの民話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。笠松中央公民館・松枝公民館・総合会館でご覧いただけます。

からわかれて、南にくだった街道は、川手から笠松へとのび、木曾川を舟で渡り、名古屋から伊勢へつづいていた。

ここを往来する旅人から、五平は鏡岩助三郎のことを何度も聞いた。

「大きな釜でたいたお茶をふるまつてくれた。」

「街道を通る人たちは、たいていその茶所に立ち寄るそうだ。」

「何でも、あの大男、昔関取やったそうな。この笠松の出だということやが……。」

悪いうわさはひとつもなかった。あの助三郎のこと一本当だろうか。本当にそんなに変わっただろうか。五平には、とても信じられないことだった。

つづく